

◇看護学科 主要科目の特長

科目	特長
形態機能論	<p>骨 筋肉系、神経系、感覚器系、消化器系、循環器系、呼吸器系を、免疫系、泌尿器系、血液、内分泌系、生殖器系などの形態と機能を学ぶ。LAN を用いた「課題の配布と提出」を行う。</p>
免疫・微生物学	<p>新型インフルエンザの大流行に始まり、ますます深刻化する薬剤耐性菌による院内感染症や、老人ホームでの食中毒集団発生など感染症にまつわる話題は枚挙にいとまがありません。歴史を紐解けば医学はペスト、天然痘、結核などの伝染病との闘いを通じて発展してきたと考えられます。これから医療人として働いてゆくみなさんも多くの感染症に出会い、治療してゆくことになります。自分を守り、患者やその家族を守りながら多くの感染症に立ち向かってゆくためには、感染症の原因である微生物について理解することが大切です。本講座では感染症の成り立ちとその原因を知り、対応方法を理解することを目標とします。</p>
看護学概論	<p>看護学概論は看護学の土台である基礎看護学に位置し、看護学全体の基本的内容を含む。看護に関する過去と現在、および未来の見通しを伝え、看護学の本質を理解し看護学の豊かさや奥深さをイメージさせ、関心を高め各領域の看護学への学習意欲を鼓舞させるための科目である。本授業のねらいは看護の基本的概念(人間、健康、環境、看護)の理解を踏まえ、看護学の知識体系(理論)の概念をつかみ、専門職としての看護の役割と機能について理解する。看護サービスの利用者である人間(対象)について成長、発達、ライフサイクルの側面、生活主体としての側面から考察し、ニードの充足と自立、適応に焦点を当てた看護活動について理解する。看護の基本は患者の苦痛を軽減し、安全・安楽・自立を確保し、環境を整え安寧を保障することであり、生命・人間の尊厳や基本的人権を基盤に看護活動を展開することを認識する。患者の権利をめぐる歴史的変遷や権利擁護の重要性について理解すると共に、生命倫理上の諸課題について考察する。</p>

◇看護学科 主要科目の特長

科目	特長
看護理論	<p>看護の本質とは、看護を「看護」として成り立たせている独自の性質です、看護の本質を自ら探究してきた人々が看護理論家であり、看護理論家たちは「看護って何だろう」と考えてきた人達です。本授業は看護理論家が看護をどのように見ているかを知ることによって看護の質を向上させることがねらいです。看護理論をわかりやすく学ぶための枠組みに沿って授業を進めていきます。例えば、「看護理論家は理論を書くときいったい何を材料にしたのだろうか」「看護理論の中の骨格部分に何が書かれているか」「看護で中心的な概念、つまり人間・環境(社会)・健康・看護をどのように捉えているのか」など考えていきます。また、看護がart であり、science であると位置づけられている根拠を分析してみることで、caring としての看護の意味をより深く理解する。さらに、看護過程の中で看護理論がどのように活用されているかを知り、看護実践と結びついた理論について考察する。</p>
ヘルスアセスメント	<p>「看護の対象となる人の健康状態を理解すること」をねらいとして、「生活者としての人のとらえ方」「身体診査の技術」を習得する。</p>
基礎看護学実習Ⅰ	<p>学生は、保健・医療・福祉施設で日常生活を送る人々の環境について知り、対話を通してその人達の気持ちや生活状況、健康や看護に対する思いを理解する。そして人々の健康を維持・増進するために、どのような看護活動が行われているかを見学し、専門職としての態度や倫理について学ぶ。</p>
基礎ゼミ	<p>入学後の環境に適応するために、大学生活を有意義に送り、積極的に学習ができる様に、大学生活の心得、学習方法、看護専門職としての学問追求に必要な文献購読、ノートテキング、レポートの書き方、グループワークの方法、コミュニケーション、プレゼンテーションの方法と実際等についての基礎的な知識と演習である。</p>
保健統計学	<p>本授業は、データ解析で用いる基本的な手法を習得する統計習得コースであり、大きく2つの部分より構成する。授業全体を通して、授業計画に基づき、幅広く講義と演習の繰り返しを実施します。</p> <p>①保健医療福祉統計のための記述統計学入門 標本データの分布を図示し、その特徴を各種の統計量で要約するための手法について学習する。</p> <p>②保健医療福祉統計のための推測統計学入門 母集団からの無作為標本によって得られる標本統計量の分布と、その分布に基づく統計的推定、検定の基本的な初歩の考え方について学習する。</p> <p>※②についても可能な限り触れることとする ※授業計画の授業は順不同とする</p>

◇看護学科 主要科目の特長

科目	特長
保健福祉行政論	<p>保健福祉サービスの役割や基本的な制度枠組について解説するとともに、保健福祉制度の運営や政策過程に関する理解を深める。日本の保健福祉行政の今日的動向とシステムに内在する問題点を明らかにし、保健と福祉の連携やサービス供給の多元化、急速に進む少子高齢化への対応を軸に展開されている制度改革の動向について検討する。看護師国家試験出題基準「社会保障制度と生活者の健康」に対応する科目であり、とりわけ「目標2」に関連する領域の受験対策を意識した講義を実施する。また、保健師国家試験出題基準「保健医療福祉行政論」の受験対策も併せて行う。</p>
公衆衛生学(疫学含)	<p>公衆衛生学は人間集団を対象とし、国民の疾病の予防や、健康増進に役立てることを目的とする学問である。疫学、疾病の広義の予防、医療・福祉・社会保障、国・地方公共団体による保健行政、環境衛生、及びこれらの活動に関連する衛生統計や疫学手法等集団の健康を維持するための基本的知識とその方法論を学ぶ。</p>
薬理学	<p>薬理学では、看護師や保健師が遭遇する医薬品と患者の病態との相互作用についての知識を養い、適切な医薬品の使用の大切さ学んで欲しい。医薬品は化学物質であり、疾患の治癒や予防に期待される作用と不必要な副作用や生命に関わる有害作用を示すことがある。もちろん期待される作用に付随している副作用もあるが、副作用や有害作用は適切な使用・適応を誤ったことにより生じる。これらは医療過誤として報道されていることは、周知の事である。限られた時間であるが、医薬品の体内での動態や作用発現機序について先ず総論を修得して欲しい。各論では全ての医薬品を解説する事は不可能であり、免疫系・抗アレルギー・抗炎症薬、抗感染症薬、抗がん薬、末梢組織・器官性疾患治療薬について講述する。</p>
臨床病理病態学Ⅰ (内科系)	<p>傷病者に対して適切な看護を行うために、それぞれの疾患についての病理病態を知ることが必要である。疾患の病理病態を理解することは、正常な人体の構造、機能や組織と疾患との違いを理解することである。この科目では、看護師に必要な人体の疾患について知識を取得し、理解することが大事である。</p>
臨床病理病態学Ⅱ (外科系)	<p>病態生理を学ぶことで、そこなわれた生理機能を回復したり、失われた機能を補てんするには、どのようにすればよいかを知り、治療や援助にどうつなげるかを考える根拠を知ることができる。本授業は病態学のうち、外科に関わる事項を臨床に即して学習し、広く外科看護の基礎知識を養う。</p>

◇看護学科 主要科目の特長

科目	特長
臨床病理病態学Ⅲ (周産期・小児科系)	わが国の周産期・小児医療は先端科学技術の応用により目ざましい進歩を遂げてきた。したがって、これらの医療現場では、看護領域においても高度な知識と適切な医療技術が要求される。本講義では、将来大卒看護師として高度な小児医療にも対応できることを目標に充実した内容としたい。胎児、新生児を含む成長過程にある患児の発達生理、病理学的知識に基づいて、病態を明らかにしそれぞれにケア、治療を解説する。
看護技術論Ⅰ (生活技術援助)	学生は、看護の対象者に看護を提供するために必要な看護行為に共通する援助技術と健康的な日常生活行動を促進する援助技術についての基礎的知識・基本的技術および看護者としての態度について学ぶ。学生は、看護実践に必要な基本的看護技術全般について学習する。詳細な目標はその都度提示する。
看護技術論Ⅱ (診療技術援助)	健康上の問題により生じる治療や検査を受ける対象を理解し、診療の補助業務における知識・技術を身につけ、安全かつ正確に与薬及び検査が提供できる能力を身につける。特に、対象者の身体に侵襲を伴うケアについて、その適応と意義・目的、原理・原則、安全・安楽への配慮などについて基本的な知識と技術を修得する。さらに看護場面における教育・指導技術を通して、対象の健康学習、成長を支援するための援助の方法を理解する。
基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学実習Ⅰを踏まえ、看護の対象である患者の全体像を捉え、その人に応じた基本的な日常生活援助ができる。又、看護過程の展開を通じて、対象者に応じた援助的関係を形成・発展させる能力を身に付けると共に、科学的かつ論理的な問題解決能力を養う。
成人看護学概論	家族・社会の成員である成人、そしてその家族の健康・健康課題を考え、看護の実践に必要な理論を学んでいきます。基礎看護学領域で習得した知識・技術を活用し、自発的・積極的に学ぶ姿勢が求められます。
老年看護学概論	高齢者を生物学的、社会的な変化の中でとらえ、老いて生きる人々の生活とそれをとりまく社会の視点で高齢者の多様性を全人的に理解し、歳を重ねること(エイジング〈加齢〉)に伴う生活の変化や、老年者に特有な症候・疾患・障害をもつ高齢者とその家族の望ましい健康生活を支える看護を実践していくための老年看護の基本的概念・理論・技法について習得する。(具体的な内容は授業計画に示す通りである)

◇看護学科 主要科目の特長

科目	特長
小児看護学概論	<p>小児看護は、小児と家族の発達段階を理解し、小児と家族がもっている力が最大限に発揮できるよう援助を行っていくことが大切です。小児看護学概論では、そのための基礎知識を学びます。</p>
母性看護学概論	<p>女性のライフステージにおける社会的・身体的・心理的特性を学ぶことにより、なぜ、母性看護が必要とされるのか、その意義について考えます。さらに母性看護の役割をふまえ、看護の実践者として、基礎的能力を養うことをねらいとします。</p>
精神看護学概論	<p>精神看護の対象は、精神を病む人のみならず、生を受けて間もない新生児から死の訪れを間近にした人まで、成長発達過程のあらゆる段階の人々を含んでいる。社会生活における精神の健康と危機的状況及びそれらに影響を与える様々な要因を幅広い視野をもって理解し、健全な精神発達への援助を思考するために必要な知識を教授する。</p>
在宅看護概論	<p>在宅における看護は、療養者の生活を健康課題の面から支援する役割を持っている。対象は、健康課題については慢性疾患を抱えながら療養生活をしている人や障がいを持って暮らしている人などさまざまな価値観を持って地域で生きる人々であり、対象には家族を含めて一体として考える。対象を支援するために在宅ケアシステムとして介護保険制度やチームケア体制および社会資源について理解する。</p>
地域看護学概論	<p>潜在・顕在する地域の人々の健康問題に対応した地域看護活動の理念(原理・原則)を教授する。地域住民全体を捉える視点および予防的視点からの健康水準の向上をめざす地域看護の概念を学習する。</p>
成人看護援助論Ⅰ (生命危機状態にある人)	<p>急性期(生命危機の状態、および周手術期)にある人の心理・社会・身体的反応を理解し、回復に向けての看護実践を学習します。各単元の授業を通して、エビデンスとしての知識・技術の理解、および理論と実践の結びつけを目指す。</p>
成人看護援助論Ⅱ	<p>慢性看護の基本的な知識と技術に関する講義を受け、各種機能障害に応じた慢性看護の考え方を理解し、個別の看護計画過程を体験する。</p>

◇看護学科 主要科目の特長

科目	特長
老年看護援助論	<p>老年期特有の健康障害について病態・症状、検査、治療過程における援助方法を理解できる。加齢に伴う身体的・精神的にも起こりうる様々な老化現象について学び、そのことが生活機能に及ぼす影響について理解できる。またそれらに必要な援助方法について考えることができる。</p>
小児看護援助論	<p>小児看護援助論は、小児看護学概論で理解した小児と家族の発達段階をふまえ、さまざまな健康状態やレベルにある小児と家族への援助について学びます。</p>
母性看護援助論	<p>周産期における母子の健康と看護について学び、対象に適した看護を展開する能力を養います。また、この講義では、演習を取り入れており、周産期における母子に必要な看護の原理・原則を学び、安全に看護を実施するための基礎的技術の習得をねらいとしています。</p>
精神看護援助論	<p>患者・看護者の関係形成に必要なコミュニケーション技術や自己洞察を養い、精神の健康に障害や問題を持つ人の援助方法について、その理論と具体的援助を学習する。さらに、事例をもとに、精神の健康の危機的状況についてアセスメントし、ニードに沿った看護計画の展開方法を習得する。また、地域における福祉サービスと援助の実際を理解することをめざす。</p>
在宅看護援助論	<p>在宅療養者の健康特性に応じた援助方法を理解し、療養者と家族を支援するために医療・看護・福祉における多色異種との連携のあり方を学ぶ。</p>
学校保健概論	<p>地域の中の学校保健として児童生徒の健康の実態を把握し、現代的健康課題に対応するための健康教育や看護能力について学び、生涯健康で生きる力を養う。学校保健推進の中核的役割を果たす養護教諭の役割、職務の特質と保健室の機能を理解する。慢性疾患や障害を持つ児童生徒の理解、感染症の予防、児童虐待防止、学校事故対策、学校救急看護の現状について学習する。地域保健と学校保健の役割と連携のあり方を理解する。</p>

◇看護学科 主要科目の特長

科目	特長
看護管理学	<p>ねらい:対象のケアに必要なマネジメントと看護職の機能について学ぶ。 概要:看護におけるマネジメントの概要 看護ケアのマネジメント 看護サービスのマネジメント 看護をとりまく諸制度 マネジメントに必要な知識・技術</p>
看護教育学	<p>看護教育論とは看護学各領域の教育に共通して存在する普遍的な要素を教育学的視座から研究する学問であり、看護学生を含む看護職者個々人の発達を支援し、それを通して人々への質の高い看護の提供を目指すものである。まず看護教育論とは何かを検討するとともに看護教育制度の歴史的変遷と現在の看護教育制度の現状と課題について明らかにする。特に看護基礎教育で大きな役割を果たす臨地実習については、教師が何を考え、何を大切に教育しているのかを知り、又、学生自身が臨地実習で直面しやすい問題をどう乗り越え学びに変えていけるかを考える機会とする。又、学生自身がどのような発達課題を持ち、教育実践や研究から生まれた看護教育論の基盤となる概念を学び、看護職として成長することは人として成長することであり自分自身について考える機会とする。</p>
成人看護学実習Ⅰ	<p>健康生活の突然の破綻や侵襲的な治療を体験する成人の対象者・家族の心理・社会的側面を理解し、その状況や変化に応じて援助ができる基本的な知識・技術・態度を習得する。</p>
成人看護学実習Ⅱ	<p>慢性病および慢性的な健康問題のある患者・家族の心理・社会的側面を理解し、健康の保持推進と健康障害の予防に向けた支援が出来る基本的な知識・技術・態度を教授する。</p>
老年看護学実習Ⅰ	<p>介護保険施設で生活している高齢者の状況を知り、その人がより健康的な生活を営むことができるように支援するための医療・保健・福祉サービスにおける看護職の役割・機能を理解する。</p>
老年看護学実習Ⅱ	<p>病院で療養生活を送る老年期にある対象とその家族を総合的に理解し、疾患や機能障害を持つ対象の生活に影響を及ぼす健康上の問題についてアセスメントを行い、対象の生活機能を維持・拡大していくことを支援するために必要な専門知識・技術・態度を習得する。</p>

◇看護学科 主要科目の特長

科目	特長
小児看護学実習	小児の健康のレベル、発達段階をふまえた看護を学ぶために、幼稚園と病院の小児病棟で実習を行う。
母性看護学実習	妊娠・分娩・産褥各期にある女性と新生児の特性を理解し、実習を通して対象の健康回復への看護および、より健康な生活に向けて家族を含めた援助を実践するための基礎的能力を養うことを目的とする。
精神看護学実習	病院、作業所等での実習を行う。詳細は精神看護学実習要綱参照のこと。一人の患者を受け持ち、看護過程の展開を行う。またグループでレクリエーションを企画・実施する。
在宅看護実習	健康上または障がいがあつて地域で生活する療養者とその家族を理解し、その状況や特性に応じた訪問看護および居宅介護支援に実際に学び、在宅ケア全般を支える仕組みや機能と保険・医療・福祉における連携およびチームケア体制について総合的に理解する。
看護研究Ⅰ(基礎編)	看護者には、研究や実践を通して専門的知識・技術の創造と開発に努め、看護学の発展に寄与する責務があります。すなわち、常に探究的視点を持って看護を思考することが重要になります。看護研究Ⅱを効果的に進めるためにも、具体例を多く準備し、できる限り分かりやすく授業を行います(ただし、レベルは下げない)。みなさんの積極的な参加を期待します。
地域看護学実習	地域保健活動の実際を理解し、地域における保健師の活動と保健・医療・福祉との協働活動、及び地域住民に対する健康支援の在り方について、実践を通して理解する。さらに人々の関わりを通して人間として成長し、将来の地域看護活動の基盤とする。地域で生活している人々(個人・家族・集団)の健康の保持増進やQOL(生活の質)向上のための地域看護活動の実際を学ぶ。また、地域における保健師の役割と活動について学ぶ。

◇看護学科 主要科目の特長

科目	特長
国際看護学	<p>看護は、人種や国籍を超えた普遍性をもつ専門的な職業であるため、私たちは、国境にこだわらない看護学を学ぶ必要がある。特に、グローバル化がますます進展している現在、各国のできごとは、相互に影響を及ぼし合い、けっして1つの国のできごととしてはおさまらない状況にある。同じ地球に住む人間として、相互に関心を持ち、助け合うことが大切であり、地球をまもり、人類全体が健康に生きていくことへとつながっていく。このような現状を理解し、グローバルな視野を持って、世界の健康やヘルスケアを考え、そして貢献できるように国際看護学の基本知識および国際医療保健・看護活動における看護の役割について学習する。</p>
災害看護学	<p>現在世界中で災害が頻発していますが、医療現場の最前線で働く看護職者は災害への興味に関係なく、その現場で働く可能性があります。災害看護を行うためには、災害に関する看護独自の知識や技術を用いることや他の専門分野と協力して活動していくことが必要です。この活動を行うためにまず災害について理解し、さらに災害の各段階の特徴、人や社会への影響、災害時に特徴的な健康課題や看護ニーズを学び、そこから看護職の役割の理解を深めます。</p>
看護研究Ⅱ（応用編）	<p>看護の学習を通じて、看護の現象・事象における疑問や未解決・未解明部分に対して研究課題を設定し、担当教員の指導を受けながら研究（実験研究・調査研究・質的研究）を行う。看護研究Ⅰに続いて、課題解決学習の集大成として、1年間かけて研究を行い、科学的な思考や論理的表現方法を学ぶ。その過程を通して、倫理的配慮の重要性、研究フィールドを得るための方法を学びつつ、看護観を育み豊かな人間性を培う。その結果をまとめて論文を作成し発表する</p>